

SPELT

March 2022. Vol.10, No.2

実用英語教育学会

NEWSLETTER

目次

巻頭言

実用英語教育学会 会長 釣 晴彦

第 11 回 実用英語教育学会 (SPELT) 研究大会 報告
(2022 年 2 月 27 日 zoom によるオンライン開催)

ビジョン 3-16 : ICT と英語教育—コロナ禍で英語教育はどう変わったか—

1. 講演

「CLIL が培う統合の意味と英語教育の可能性」

講師：笹島 茂 教授 (東洋英和女学院大学)
(報告 実用英語教育学会 杉浦 理恵)

2. 実践報告

「言語活動を通じた指導の充実—聞く活動を重視した指導を通して—」

報告者：阿部 巧 先生 (厚真町立上厚真小学校, 英語教育推進コーディネータ)
(報告 実用英語教育学会 竹内 典彦)

3. お知らせ

- ・ 総会について
- ・ 2022 年度の研究会について
- ・ 会員募集について
- ・ 編集後記

巻頭言

実用英語教育学会 第11回研究大会を終えて

実用英語教育学会会長 釣 晴彦
札幌学院大学人文学部 特別任用教授

2020年、2021年、2022年と3年に渡り zoom にての研究会になりました。2月下旬のお忙しい中、それも日曜日のオンラインによる研究会に35名の方に参加して頂き、感謝申し上げます。前回同様に大変有意義な研究会になりました。

実践報告は厚真町立上厚真小学校の阿部巧先生が、「言語活動を通じた指導の充実」として小学校の外国語の言語活動を通じた指導を充実させる授業改善の様子を紹介して頂きました。現場で実践している内容は、とても児童の活動が目につくような活動報告でした。

小学校5、6年生を対象に教科ごとに専門の教員が教える「教科担任制」がこの4月から本格的に導入されます。北海道教育委員会によるとすでに1教科でも導入しているのは6割にもなるそうです。特に外国語で導入している割合が多いとのこと。小学校ではどのようにして学びが変化していくのか分かりませんが、阿部巧先生の実践報告を見て、また、厚真町が学校全体で活動できるサポートをしている様子を伺ってとても頼もしく感じました。

講演は、「CLILが培う統合の意味と英語教育の可能性」と題して東洋英和女学院大学の笹島茂教授による講演でした。CLILとは何かと、基本的な概念から説明をして頂き、またCLILの視点から、「英語を学んで何をするのか?」「教師はどう英語を教えるのか?」「成長するとはどういうことか?」など、普段我々が悩んでいることをとても分かり易く丁寧に方向性を示して頂きました。笹島茂教授は、「教育としてのCLIL」(笹島, 2020)の著書でこう書かれています。「CLILは、言語教育の伝統からは少し外れる考えからヨーロッパで生まれたが、決して新しい学習でもなく指導法でもない。きわめて素朴な教育であり、特に新しい言語教育を提案しているわけではない。いわば、多様なアイディアが組み合わさったことで生まれた、今までにはないパッチワークキルトのような統合的な学習である。新しさはその発想にある。CLILは、科目の内容を学ぶ対象となる外国語(目標言語)を使って、かつ、外国語を学ぶことも統合して学習することを想定した教育である。その発想は、複雑であるが直感的に新鮮なのである。」この難しい時期にもかかわらず、2月、3月と先生は、ヨーロッパへCLILの視察研修に出かけて活動をなさっています。CLILには柔軟性があります。その視点からCLILはソフトとハードに分類された研究発表もあり、CLILが再認識されてきた今日、今後の研究、実践にも大いに期待をしたいと思います。

小学校外国語活動も本格的に2020年から始まり、中学校は2021年、高校は2022年から完全に実施となります。小、中、高、大で教壇に立つ会員が相互につながり、情報や手法を共有して、さまざまな領域と水準における英語教育の実践と研究を行い、共に学んで歩んでいきたいと考えております。皆様のご指導、ご支援を一層賜りますようお願い申し上げます。

第 11 回研究大会 < 講演 >

「CLIL が培う統合の意味と英語教育の可能性」

講師：笹島 茂 教授（東洋英和女学院大学）

講演者プロフィール

専門は、Language Teacher Cognition, CLIL, Lesson Study, ESP, CEFR など。英国（スコットランド）スターリング大学博士課程修了（PhD in Education）。埼玉県公立高校教諭，埼玉医科大学教授を経て，現在，東洋英和女学院大学教授。大塚英語教育研究会（幹事），大学英語教育学会（JACET）（理事・監事）などの活動を経て，現在，日本 CLIL 教育学会（J-CLIL）（会長）。『言語教師認知の研究』『言語教師認知の動向』『CLIL 新しい発想の授業』『教育としての CLIL』『高校英語教科書 Grove シリーズ』など著書多数。



笹島先生は，日本における CLIL 教育の第一人者でいらっしゃいます。今回，先生には「CLIL が培う統合の意味と英語教育の可能性」という演題でお話し頂きました。先生のお話から，何のためにどのように英語を学ぶ（教える）のか，という日本で CLIL 教育を実践する上で大切な視点を考える貴重な機会となりました。参加者からは，「CLIL の考え方を理解することができた」，「自分の実践にも取り入れたい」，といった今後の教育実践につながる意欲的な感想を頂きました。

以下，ご講演の内容を紹介します。

1. CLIL と教育

CLIL は，ヨーロッパで始まったものであるが，約 10 年前から日本でも CLIL を定着させようと書籍や教科書を出版してきた。2020 年には三修社から「教育としての CLIL」と題する書籍を出版した。また，日本 CLIL 教育学会（J-CLIL）の会長を務めており，全国に支部や委員会がある。北海道でも支部ができれば，と考えている。2022 年度からは，この J-CLIL を母体とし，英語教育を変革する CLIL 教員を育成するための「CLIL 教員研修プログラム（CTEP）（運営団体：特定非営利活動法人 CLIL 教員研修研究所：CLIL-ITE）」を開始する。

CLIL とは，Content and Language Integrated Learning のことであり，Learning（学習）である。しかし，実態は 1 つの教育理念だと考えられる。CLIL は CLIL Methodology とも言うが，スコットランドのエディンバラ大学の Do Coyle が使用していた Pedagogy という言葉が，私自身は好きで使用している。私はスコットランドで PhD を取得したのだが，教育（Pedagogy）はスコットランドでの捉え方のように，文化的，社会的，政治的な価値も踏まえた基盤的なものであり，単に学習指導をするというだけではないと考えている。そういう意味で，内容と言語を統合する CLIL という考え方は興味深いものである。

では，CLIL とはどういったものか。例えば，数学の $y=5x$ といった等式について学ぶ場合，“A variable is a symbol for a number we don't know yet. It is usually a letter like x or y, so x or y is called a variable...” といった英文で説明される。Youtube などで数学を英語で解説している動画も多々あるが，そういったものを視聴してわかるように，英語でも比較的理解しやすいものである。そのように考えると，CLIL というのは，シンプルに「内容と言語を統合した学習」ということである。

2. 日本における CLIL

CLIL の考えが最初に紹介された頃、日本の教育環境では CLIL は合わないと考えた人もいたようであるが、それはヨーロッパを基準に考えたからではないか。ヨーロッパでは、content は subject (科目) という意味で定着している。また、CLIL の language としては英語が圧倒的に多いものの、他の言語も扱われている。当初は、CLIL は科目担当の教師が担当し、言語教師はあまり関係ない、という傾向があったようである。ただ現在は、CLIL は言語教育の一環だという考え方が広がっている。一方で、生徒の言語力が高い場合には、言語にそれほど焦点を当てなくても良い場合もあり、日本にいとヨーロッパの多様な CLIL の事情が理解しにくいことはある。

CLIL、つまり「内容言語統合型学習」では、「統合した」ということが大切であり、状況によって様々な形態がある。現在、教科を横断した Cross curriculum や言語教育の観点での Bilingual education が進んできている。そういったことから、CLIL が取り入れられるのは自然な流れである。CLIL に関しては、4Cs (Content, Cognition, Communication, Culture) が特徴として、広く理解されるようになってきている。CLIL の理解が進む中、Bilingual education, Immersion, CBI, 科目を英語で教える EMI (English Medium Instruction) などと CLIL の違いは何か、という議論もある。しかしながら、私自身はあまり深く考えず、シンプルに「内容と言語を統合した学習」と考えることが良い、と考えている。そういった議論や問いに対する答えは無いのではないかと、思うからである。例えば、以下のような様々な質問が挙げられる。

- ・ CLIL は各科目の学習か? 英語の学習か?
- ・ CLIL は誰が教えるのか?
- ・ 小学校英語で CLIL は無理ではないか?
- ・ 英語学習は基礎基本が大切ではないか?
- ・ CLIL は英語が堪能で科目の知識がなければ教えるのが無理?

こういった質問はあるが、深く考えるよりも、自分に合えば取り組んでみれば良いのではないだろうか。

日本の(初等)中等教育の英語教育を見ると、様々な方法がある。日本では、文法、語彙、読解を重視した文法訳読法などの教育と、音声、場面、機能などを重視したコミュニカティブ・アプローチなどの教育の間を CLIL は仲介するようなものになるだろう。CLIL は、英語と日本語といった言語と、学び・思考、科目内容・テーマを関連づけるものである。つまり、CLIL は指導法 (methodology) と言われるが、教科科目の内容・テーマと言語を統合する学習という教育理念 (pedagogical principles) のもとに実施される教育の総体 (entity) と言える。「統合」が難しいと言えれば難しいが、そこが面白いと言えれば面白い。

3. CLIL を実施する理念

CLIL を実施する理念を、書籍「教育としての CLIL」(笹島, 2020) では、以下の6つにまとめている。

CLIL を実施する理念

- ・ CLIL は言語教育の一環である (language learning)
- ・ CLIL は思考力を育成する教育である (cognition)
- ・ CLIL は目標言語によるコミュニケーション能力を育成する (communication)
- ・ CLIL は互いの文化を理解する場を提供する (interculture)
- ・ CLIL は学習者の自律学習を促進する (cognition + context)
- ・ CLIL は学ぶ内容に焦点を当てることで学ぶ意欲を喚起する (content)

このような理念を日本における CLIL 教育の枠組としてまとめると、「思考(cognition), 内容 (content), コミュニケーション (communication), 言語学習 (language learning), インターカルチャー (interculture), 状況 (context)」が関わっている。感情という要素が大切であるので、図で示す場合は、ハートマークを使用できる。また、日本における CLIL の定義は、書籍「教育としての CLIL」(笹島, 2020) で、以下のように定義している。

「CLIL は、学ぶ内容 (科目やコースなどに関連した知識, 理解, 技能) と (英語と日本語などのバイリンガルなど) 言語の統合学習のことを表す総称的な言い方であり, コミュニケーション重視の言語指導を基盤として, 認知 (思考) と文化 (文化間意識) に焦点を当てる。CLIL は学習状況により目標言語の学習と使用に関しては柔軟に対応し, 変わる。」

4. これからの英語教育の可能性 - 英語教育から言語教育+統合教育へ

これまで約 45 年間, 英語教育に関わってきた。諸外国の早期言語教育の調査研究を通して, 実用とニーズに基づく自律した言語学習の重要性を感じてきた。また, 中等教育の教員養成と研修の調査研究を通して, 授業の工夫と授業観察をし, reflective teacher education に力を入れてきた。こういった調査研究から, 日本の教育政策の検討の必要性も感じてきた。

2020 年代からは, 特に統合教育が大切だと感じ, 多機能教師の育成が必要であると考えてきた。多機能教師 (IMT: Integrated Multifunctional Teacher) とは, 「日本語や英語などいくつかの言語を教え学ぶことに携わる教師で, かつ, 専門分野や教科などの学ぶ内容と関連した学習者のニーズや特性に応じて多様に柔軟に対応する思考と統合的な学習を支援する教師」のことを指す。こういった多機能教師の育成を視野に, 講演冒頭で紹介した「CLIL 教育研修プログラム」で教員を育成し, 今後も CLIL の実践と普及に力を注いでいきたいと考えている。

日本では, 英語関連の学問には様々な分野があるが, 「CLIL とは?」という研究をして学問を作るわけではない。CLIL は実践であり, 色々な教育の文脈で興味を持った方に少しでも実践して頂きたい。

(文責 杉浦)

第11回研究大会 <実践報告>

「言語活動を通じた指導の充実—聞く活動を重視した指導を通して—」

報告者：阿部 巧 先生（厚真町立上厚真小学校，英語教育推進コーディネータ）

発表概要

阿部先生は、「理論と実践の往還」や「学習指導要領と理論をどのように融合させるべきか」という視点で実践を積み重ねてこられました。今回、先生には「言語活動を通じた指導の充実—聞く活動を重視した指導を通して—」という演題で報告して頂きました。参加者からは、「漆塗り型の考え方ですが、児童にゴール意識を十分に持たせ、なぜ、今学んでいることが必要であり、どのようにつながっていくのかに関わりますので、動機付けの観点からも大切だと思いました」「積み重ね型から漆塗り型への考え方、およびその実践の様子がよくわかりました」「漆塗り型の具体例を提示してくださり勉強になりました」というように、「漆塗り型」の指導概念に関心を持たれた方が大勢いらっしゃいました。

以下、ご発表の内容を紹介します。

0. はじめに（みなさんはなぜ英語を勉強していますか？）

自分は中学校の先生から留学の話を知り、英語に関心を持ち、学習の原動力となった。最近授業の中で「英語を話す」活動が多く取り入れられていると感じる。新学習指導要領のもと、やるべき課題はたくさんあるが、今日は「指導法」「思考力」「言語活動」「評価」について話したい。「指導法」については「新学習指導要領と理論がどのように結びついているか」とか「思考力」が最近重視されているが「ここぞという時に何を話そうか」と考える力が重要と感じる。また「評価」は「主体的に学習に取り組む態度」などの3観点別評価についての話等をご紹介したい。



自己紹介

名前：阿部 巧 (ABE TAKUMI)
経歴：北海道教育大学教育学研究科英米文学専攻
むかわ町立鶴川中央小学校（4年）
社管町立久保内小学校（4年）
厚真町立上厚真小学校（現在4年目）
研究：「小学校英語におけるルーブリックを活用した授業づくり」（共著）
「Can-Doリストを活用した授業改善の試み」（共著）
【最近興味を持っている分野】
・インプットを重視した授業の在り方
・道内でどのように研修活動を推進できるか

1. Input の重要性

◎学習指導要領（聞くこと）

- ・外国語活動の目標（指導要領）より

『児童が興味・関心を示すような自分のことや身の回りの物を題材として扱うことが大切である』

『初めて教科として英語学習に取り組むことから、イラストや写真と結び付けるなどして、自分のことや身近で簡単な事柄について聞き取ることができたという達成感を十分味わわせるようにすることが大切である』

- ・研修ガイドブックより

『～この外国語学習の特徴を踏まえると、児童に聞かせた語句や表現をすぐに使わせようとするのは不適切である。十分に音声で語句や表現に触れる機会をつくり、話すことのレディネスを整えるようにすることが重要である。「聞くこと」から「話すこと」へという流れは、外国語学習では、「インプット（入力）を十分に行ってからアウトプット（出力）させるようにする」，「インプットが重要である」，「アウトプットを急がさない」という表現がされることもある』

- ・聞くことにおいては

- 1 話題：児童が興味関心を持てる話題を場面と関連づける
- 2 聞かせ方：児童が理解しやすいような工夫をする→徐々に何もなくても聞けるようにしていく
- 3 達成感：聞けたことから自信→真似してみたい，話したいにつながる
- 4 インプット：インプットを十分に聞かせてからアウトプットさせることが大切である

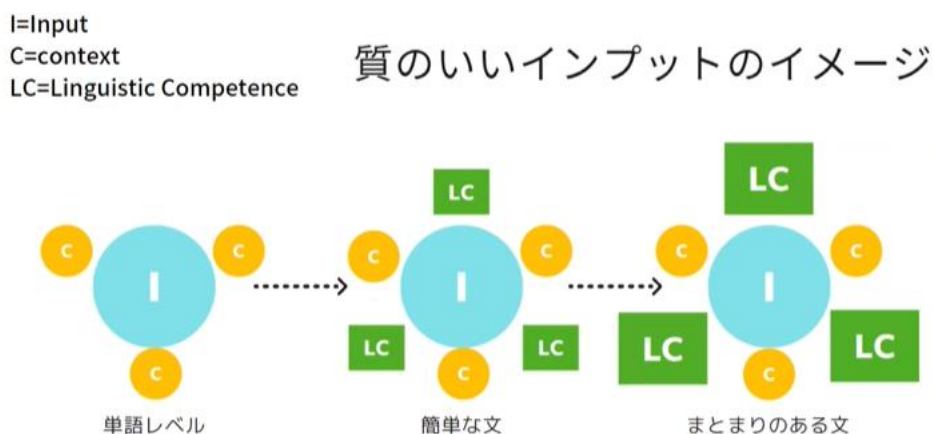
*学級の雰囲気作りが大切である（直山視学官）

◎Input 仮説

- ・話すことは言語習得の結果である→話す練習などの効果は限定的，Comprehensible Input を大量に与えることで言語習得につながる，習得学習仮説と自然習得順序仮説，情意フィルター仮説など
- ・既習の言語能力やコンテキスト等を活用して i+1 を乗り越える（クラッシュェン氏の書籍より）
- ・ここでいうコンテキストは，学習指導要領における「目的・場面・状況」と考えられる

◎質のいいインプット

- ・質のいいインプットとは下のイメージ図でいうと，一番左の単語やチャンツレベルから，真ん中の簡単な文，そして理由づけなどもされている右の「まとまりのある文」へと進んでいく中でコンテキスト（目的・場面・状況）がしっかりと設定されることが大切である。イメージ図にある通り，コンテキストは「聞くこと」，そして「話すこと」においても非常に重要である



2. 言語活動を通じた指導

◎小学校外国語・外国語活動における課題

- ・小学校外国語2年目を迎えて（直山視学官）
『言語活動でこそ，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の学習状況を見取る』（評価）
- ・『外国語活動や外国語科における言語活動は，記録，要約，説明，論述，話し合いといった言語活動よりは基本的なものである。「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する』（研修ガイドブック）
- ・「話すこと」だけでなく「聞くこと」の言語活動が重要。「聞くこと」は軽視されがち
- ・目的・場面・状況の必要性→目的や場面などに合わせて方法や内容が変化する
内容→話す順番，話す内容を選ぶなど
方法→声の大きさ，抑揚，話すスピード，必要な表現，語彙の取捨選択など（研修ガイドブック）
- ・知識・技能は意味のある言語活動を通して，体験の結果として身に付く→言語活動の充実が知識・技能の育成につながる（研修ガイドブック）
- ・こうした言語活動を通して「思考」が深まる。またここでいう「必要な表現」とは児童が使いたい表現ならば，既習事項でなくても含まれるのだろうかという「今後の課題」として日々考えている

◎練習と言語活動

- ・練習と言語活動は区別されている（ただし「練習」自体は必要）
練習→発音，歌，文字を書く etc. 言語活動→目的・場面・状況がある
- ・言語活動と切り離して，単語のリストを覚えさせたり，文の一部を言い換える「パターン・プラクティスは求められていない（研修ガイドブック）
- ・言語活動を通して指導する
単元終末のみではなく，単元全体で言語活動を行う。ゲームなども工夫次第で言語活動に近づく（例 キーワードゲームで「スポーツ」が題材なら“I like (好きなスポーツ).”と言わせる）
- ・「ピラミッド型」から「漆塗り型（直山視学官）」の指導計画へ
「ピラミッド型」とは，練習を積み重ね，単元末にリアルな言語活動を行うこと
「漆塗り型」とは，言語活動を通して指導するイメージであり「単元を通して，毎時間小さな言語活動を積み重ねる＋（コンテキストを伴う）質の高いインプットを毎時間行う」ということ
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価
「知識・技能」が B，「思考・判断・表現」が B，主体的に学習に取り組む態度が A などと評価することが議論になっている。しかし直山視学官の話では，AAB，BBC，ABA などの例もあるという

3. 本校3年生の授業内容

- ◎言語活動を通じた指導（公開授業） Let's Try 2-7 What do you want? (パフェとピザの内容を考える)
既習内容 I like ○○. Do you like ○○? What ○○ do you like? 数字 1 から 60, 野菜と果物
新出内容 I want ○○, please. 野菜と果物
- ・直山視学官の講評 『ALT との連携がしっかりとできている。単元のゴールの設定がリアルでいい。言語活動を通じた指導ができている。文構造の指導が効果的にできている』
- ・ピラミッド型 練習（ゲームやチャンツで野菜や果物）→練習（ペアで What do you want?）→疑似言語活動（少し長めのやりとり）→言語活動（パフェを注文する）
- ・漆塗り型（同時並行で毎時間行う）言語材料を使うコンテキスト→やり取りを通して単語や表現練習→給食のネタなどを small talk→パフェの味やトッピングを決める→パフェの味，トッピングなど→（最終的な言語活動のゴール）パフェを注文
- ◎聞く活動を重視している場面
 - ・単元末の言語活動＝お楽しみ会でフルーチェパフェを注文する
 - ・単元途中の言語活動＝味やトッピングについてクラスの仲間の好みを聞いたり，相手によく伝わるように工夫しながら自分が食べたい味やトッピングを伝えたりする
- ◎文構造を指導する場面
 - ・kiwi fruche と fruche kiwi のどちらがよい表現かを気付かせる（直山視学官から高い評価を得た）
 - ・毎時間小さなタスクを言語活動として積み重ねていく→活動のコンテキストがあるので日本語の説明が必要最小限で済み，スムーズに進み楽しい雰囲気を進めることができた
- ◎既習事項を活用してやりとりする場面
 - ・自分の好きな味を伝え，自分と同じ味が好きな人を探す（使う表現は指定しない）→クラスのフルーチェランキングを調べるために，クラスのメンバーの好きな味について尋ねたり答えたりする（尋ねる際に使う表現を考える Do you like か What fruche do you like→相手の一番好きな味を調べるには What fruche do you like? で聞く必然性を気付かせる→言語材料を覚える）→My name is ○○と名乗ってから相手に聞く児童がいたが，（お互い名前を知っていて）その必要はないので，中間指導で児童に考えさせたいうえで，名乗らないように修正した
 - ・『When is your birthday?』の動画は時間の関係で省略（「ぜひ視聴したかった」の声がありました）

（文責 竹内）

お知らせ

◆総会について

第 11 回研究大会に先立って行われた総会で、活動報告と会計報告が承認されました。

◆研究会の開催日(予定)について

第 11 回研究会は 2022 年 6 月頃に開催することを予定しております。詳細につきましては、後日あらためてお知らせいたします。ぜひご参加ください。

◆会員募集について

実用英語教育学会では、新会員を募集しております。年会費は 4,000 円です。会員の皆様は、研究会や大会の参加費が無料になるほか、口頭発表および論文発表の発表資格を得ることができます。SPELT の情報は下記の HP でご覧いただけます。

実用英語教育学会ホームページ <http://spelt.main.jp/>

◆編集後記

オンラインで行う講義や授業や研究会が当たり前を感じるようになり、以前のように集まって打ち合わせて、会場を用意して、講演者や参加者をお迎えする会の運営を忘れそうになります。それでも、貴重なリソースやご講演やご発表にどこからでもアクセスできるようになったこと自体、広く多くの人々をつながる可能性も感じます。今年度、まだ終息が見えないコロナ禍の世界的なパンデミックに、大雪、海底火山の噴火、地震などの自然災害、そして紛争や緊張など局地的なことであっても何かしらの影響が避けられない時代だと感じることも多くありました。平和で安全で、また健康であることを願いつつ、柔軟に対応していかなければと感じる年度末です。会員の皆さまにおかれましても、引き続きくれぐれもご自愛ください。来年度もよろしく願いいたします。

(文責：山崎)

実用英語教育学会

編集: *SPELT Newsletter* 編集委員 (山崎秀樹・竹内典彦)

発行: 2022 年 3 月 31 日

事務局: 〒065-8567 札幌市東区北 16 条東 9 丁目 1 番 1 号

札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科 石川希美 研究室内

TEL: 011-742-1651(代) Fax: 011-742-1654(代)

Email: spelt.info@gmail.com *を@にしてください。